

# やまがた創生便り

第 7 号  
2017.11.20

文部科学省では、平成 27 年度から、大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的として「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」を実施しています。

## 特集 インターンシップ(就業・職業体験)

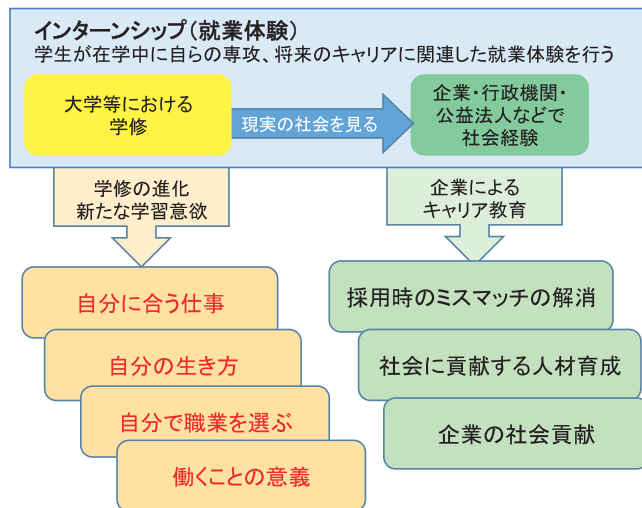
インターンシップは、学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うことにより職業観を醸成することを期待したもので、わが国では平成9年に文部省(現文部科学省)他2省の共同でインターンシップについての基本的考え方を示しています。今日では、教育機関はインターンシップに参加する学生数の目標値を設定し、キャリア教育から就職支援まで一貫して支援体制を整備することが求められています。

県内の高等教育機関でも、主に、夏休みなどの長期休業期間を利用して1～2週間のインターンシップを行うことにより、単位を取得することができます。学生にとっては、企業や行政機関等で働く社会人の姿を見ながら、働く魅力を知るとともに、人間力を高め、職業観を醸成できます。一方、企業にとっては、将来を担う若者達を育てるとい社会貢献であるとともに、自社の魅力を示す絶好の機会となります。

平成29年度においては、9月末までにインターンシップを実施した学生数は県内大学・高専を合わせて760名であり、このうち山形県内の企業や自治体等には434名が参加しています。COC+事業に連携している7高等教育機関に在学する学生総数は1学年当たり約3,000名であり、約7人に1人の学生が県内で実施していることになります。受入れ先があっても、学生が希望しないあるいは希望できない状況もあり、大学・企業双方の努力が必要です。

COC+事業では、平成31年度に県内でのインターンシップに参加する学生数を800名にすることを目標にしており、この結果として、地域に就職する学生の割合が平成26年度に比べて10%高まることを期待しています。

本号では、インターンシップの中でも特長的な鶴岡工業高等専門学校の中長期のCO-OP教育、東北公益文科大学の長期のギャップイヤープログラム、山形大学の短期プレインターンシップを紹介します。



平成29年度インターンシップ参加者数

9月末現在

教育機関	参加人数(人)	うち山形県内で実施(人)
山形大学	287	223
山形県立米沢栄養大学	13	13
鶴岡工業高等専門学校	171	31
東北公益文科大学	50	45
東北芸術工科大学	118	9
東北文教大学	63	57
東北文教大学短期大学部	58	56
計	760	434

「実践型企業実習 ～CO-OP 教育～」



鶴岡工業高等専門学校  
地域連携センター長  
吉木宏之  
同副センター長  
増山知也  
地域連携コーディネータ  
梅津正春  
学生課  
村田かおり  
サテライトラボ  
石山由希子

鶴岡高専では、中長期にわたり企業活動の一部を実体験する特徴を持つ、より実践的なインターンシップを実施しています。企業における実習に先だっては、マナー、安全、製図基礎などの事前教育を、実習後には、プレゼンテーション、就業内容の工学的理解などの事後教育を教職員が行いますので、企業と学校との共同教育という意味で「CO-OP教育」と名付けています。

また、企業における実習を3年次の夏季休業、3年次の春季休業、4年次の夏季休業・・・と繰り返すことを前提にしており、学校での講義の進度に伴い、企業での実習内容もステップアップして、学生の成長に即した授業を実現しています。

本授業によって、低学年時から企業の理解が進み、働くことの意義を認識するようになり、学生の進路決定やキャリア形成に深く寄与しております。

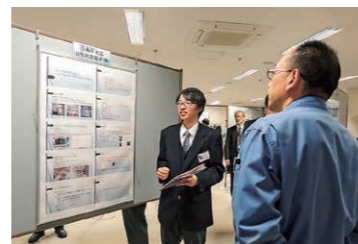
【平成29年度夏季CO-OP教育成果報告会】  
日時：平成29年12月6日(水) 15:30～16:40  
場所：鶴岡高専校内  
参加学生が実習について報告いたします。たくさんの方々のご来場をお待ちしております。



事前教育



実習の様子



成果報告会

受講学生の声



CO-OP教育を通して学んだこと

鶴岡工業高等専門学校 機械工学科 5年  
石塚 舜貴

私は鶴岡高専で機械工学を勉強しています。学校で習う製図や実習、加工学などの枠を超えて、実際の企業の現場で活用されている生産技術の業務・技術を知り、理解を深めたいと思いCO-OP教育に参加しました。企業実習では装置の動作調整、治具の設計、設備の作業フローの作成など、生産現場で必要となる多様な仕事を体験しました。作業フローは作業の流れを分かりやすく図示したもので、新設備導入による作業の変

化を実観察して作成しました。誰が見ても理解できるフローを作成することは難しく、多くの修正が必要となりました。

CO-OP教育を通して学んだことは、「自分以外の人の目線になって仕事をする」ということです。作業フローでは、読む人が必要とする情報を理解すること、装置設計では使用する人、加工する人の目線になって「使いやすいか・加工しやすいか」等を考えながら作業することが大切であることを学びました。これらは学校の授業だけではなかなか身につかない視点であると感じました。



実習の様子

「早期学外学修 ギャップイヤープログラム」



東北公益文科大学公益学部  
(長期学外学修部会・部会長)  
古山 隆

ギャップイヤープログラムは、入学後の早い時期(6月上旬～8月上旬)に学外で社会体験学習を行い、大学4年間で学びの方向性を明確にすること、目標に向けた学修を主体的に行う姿勢を身につ

けることを目的としています。学修内容として地域経営系の教員が対応する地域行政型とビジネスインターンシップ型、交流文化系の教員が対応するフィールドワーク型とグローバル学修型があり、他には学生が提案する学生提案型のプログラムも設定しています。なお、本プログラムはギャップイヤー入試に合格した学生のみが受講でき、自分のやりたいことやなりたいたいものに向けてオリジナルでオンリーワンの学修を体験しています。

受講学生の声

地域行政型 2年 江渡 絳里

高校の生徒会の活動でボランティアや様々な行事を通じて地域の方々の話を聞き、将来は公務員となって行政面から地域の人を支えたいという思いで、約2ヶ月間、週3回、庄内総合支庁に通い実習を行いました。庄内地域の良い所や現状と課題について様々な面から考えることができ、また、より良い地域とは住民と行政が一緒に作っていくものだという事に気がきました。



フィールドワーク型 1年 遠藤小野花

実習では酒田市日向コミュニティ振興会と地域おこし協力隊が企画運営する地域づくり滞在型プログラムに参加し、住民の方より近い環境の中で地区の特徴や魅力を発見したり課題を抽出したりするという活動を行いました。プログラムを通して企画力、傾聴力、課題発見力が身についたと思いますが、コミュニケーション力、リーダーシップ、問題解決力が課題だと実感しました。



学生提案型 1年 棟方好華

子供の頃からプロ野球の球団職員になるのが夢で、また、地元の青森県にプロ野球球団を設立して地域活性化を図りたいという目的から、独立リーグの球団である新潟アルビレックスBCで約2ヶ月間実習を行いました。球団職員の方やボランティアの方から球団経営や企画設定の方法、グッズ開発等を教えていただき、自分がこれから何をすべきかが明確になりました。



平成29年度COC/COC+シンポジウム  
**オール山形による  
地域創生人材育成の今とこれから**  
平成29年 **12/15** 金  
【時間】13:00-16:20(開場12:30)  
【会場】山形国際ホテル  
3F 富士の間(山形市香澄町3-4-5)  
お問い合わせ・お申込み先  
山形大学 COC/COC+推進室  
電話 ▶ 023-695-6264 FAX ▶ 023-695-6229  
mail ▶ cocsu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp  
〒999-3101  
山形県上山市金瓶湯尻19-5 山形大学総合研究所 501

参加無料 定員120名  
申込締切 11/30(木)

13:00 開会挨拶  
主催者挨拶 山形大学長 小山 清人  
来賓挨拶 山形県知事 吉村 美栄子

13:10~13:50 第一部 基調講演  
演題「地域創生人材をいかに育てるか」  
弘前大学副理事 (人文社会科学部教授) 曾我 亨

13:55~14:55 第二部 事例報告

- (1) まちづくり  
西川町政策推進課長 土田 伸
- (2) インターンシップ  
山形県中小企業家同友会共同求人委員会副委員長 (株)サニックス代表取締役社長 佐藤 啓
- (3) 学生活動  
山形大学 向井 硯哉 (アクセルリンク米沢)  
東北芸術工科大学 追沼 翼 (郁文堂再生プロジェクト)
- 東北公益文科大学 八木 絵莉香 (長期学外学修プログラム-酒田市日向地区-) 東北文科大学短期大学部 安達 明日香 (在宅高齢者訪問活動とぶんきょうサロン) 鶴岡工業高等専門学校 阿部 あすか (テクノ・パラメディック)
- (4) 大学教育  
山形大学学術研究院 (学士課程基盤教育機構) 准教授 荒木 志伸

15:05~16:20 第三部 パネル ディスカッション

パネリスト  
弘前大学副理事 曾我 亨  
西川町政策推進課長 土田 伸  
(株)サニックス代表取締役社長 佐藤 啓  
東北公益文科大学 八木 絵莉香  
山形大学准教授 荒木 志伸  
コーディネーター  
山形大学COC+推進室長 (地域教育文化学部長) 出口 毅

16:20 閉会挨拶

# 「フィールドワーク山形の企業の魅力(プレインターンシップ)」



山形大学 学術研究院(学士課程基盤教育機構)  
松坂暢浩

### 【本授業の取組概要】

本授業は、山形大学の基盤共通教育(基幹科目「山形から考える」)で開講している低学年(主に1年生)を対象にした短期インターンシップ(3日間)の授業になります。

特徴として以下の3点挙げられます(図1)。

- ①2年次以降の本格的なインターンシップ前のプレ体験(お試し版)と位置付けている点
- ②早期から学生と県内中小企業が相互理解の深める機会を提供している点
- ③県内の中小企業団体(山形県中小企業家同友会加盟企業)と連携している点

今年度(平成29年度)は、履修学生42名を25社の中小企業へ派遣しています。また企業のマッチングは、視野を広げる観点から学生の希望は取らず、現住所から通いやすい企業を割り振る形にしています。さらに、インターンシップの好事例として文部科学省に選出され、『インターンシップ実践ガイド』にも掲載されました。

### 【本授業のスケジュール】

本授業のスケジュールは、3つのステップで実施しています(図2)。まず「事前指導」(ビジネスマナー講座、応募書類の作成、中小企業研究等)を隔週で行っています。次に「インターンシップ実習」(3日間)に参加し、最後に、学生および受入企業をお招きし、「事後指導」として、実習の振り返りと成果報告会を開催しています。

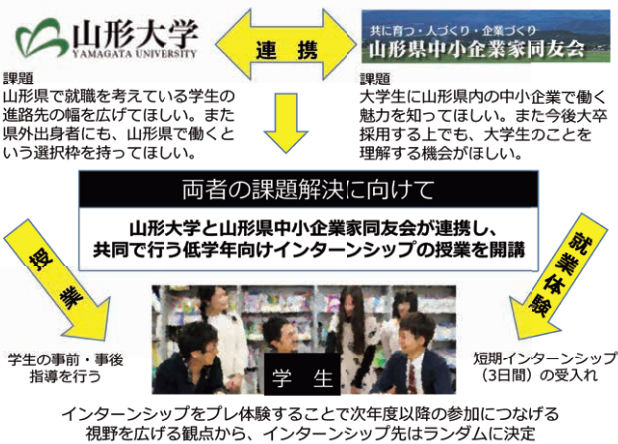


図1) 本授業全体のイメージ



図2) 本授業のスケジュール

## 受入企業と受講学生の声



株式会社サニックス 代表取締役社長  
佐藤 啓

インターンシップ生を受入れて感じたことは、学生に教えることで、自社の魅力や働くことの楽しさを、改めて気づかせてもらいました。また、学生からの新鮮な意見は、我々にとっても大変参考になり、組織の活性化が図られるとても良い「共育」プログラムだと感じました。



山形大学 工学部 機械システム工学科 1年  
安藤 晃一

実習に参加して、中小企業で働く人達の目標や熱意を知りました。低学年の内に、中小企業で働く事の楽しさを知れてよかったです。就職するならインターンシップ先の企業様の様に、目標に向かって頑張ることができる会社に勤め、誇りの持てる仕事をしたいと強く思いました。

### 【事業の連絡先】

山形大学 COC・COC+推進室 TEL: 023-695-6264, 6266  
山形県立米沢栄養大学総務企画課 TEL: 0238-22-7330  
鶴岡工業高等専門学校総務課 TEL: 0235-25-9453  
東北公益文科大学庄内オフィス TEL: 0234-41-1115  
東北芸術工科大学法人企画室 TEL: 023-627-2089  
東北文教大学運営企画室 TEL: 023-688-2298  
米沢市総合政策課 TEL: 0238-22-5111 (内:2810)  
鶴岡市政策企画課 TEL: 0235-25-2111 (内:525)

E-mail: cocuisin@jm.kj.yamagata-u.ac.jp  
E-mail: jimuyone.ac.jp  
E-mail: kikaku@tsuruoka-nct.ac.jp  
E-mail: coc-office@koeki-u.ac.jp  
E-mail: c\_o\_c@aga.tuad.ac.jp  
E-mail: soumu@t-bunkyo.ac.jp  
E-mail: chiiki-t@city.yonezawa.yamagata.jp